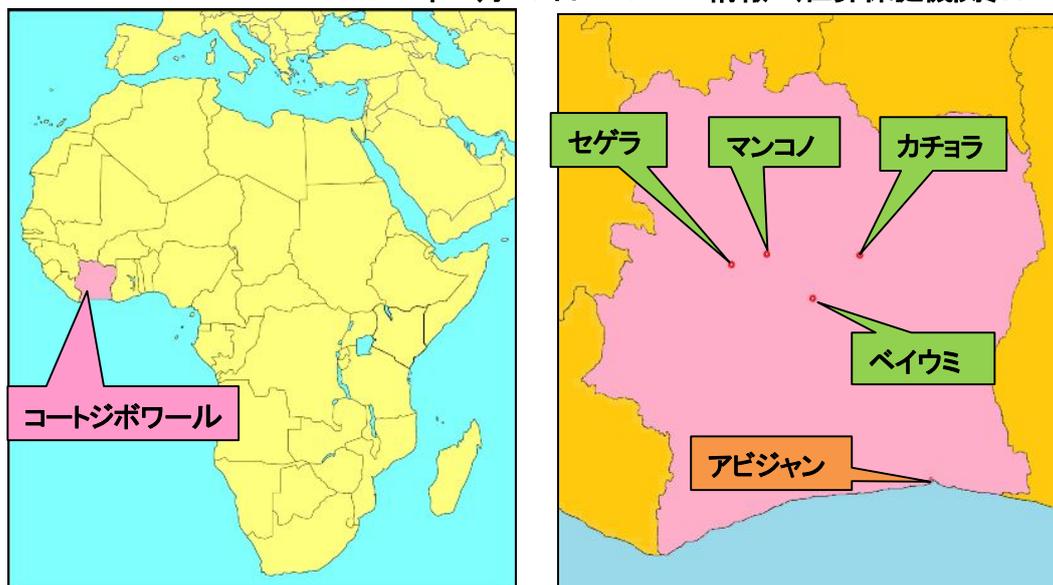


コートジボワールで黄熱が流行(更新 1)

2011年1月26日 ProMED 情報 (世界保健機関[WHO])



1月3日、コートジボワールの保健大臣は、同国北部での黄熱の流行を世界保健機関(WHO)へ通知しました。1月17日現在、患者12名が、アビジャン Abidjan のパスツール研究所で実施された検査(ELISA法によるIgM抗体検出)で陽性と確認され、さらに、WHOの協力検査施設であるダカール Dakar のパスツール研究所で黄熱と確定診断されました(ELISA法とPRNT法)。患者は、同国中央部のバンダマ溪谷 Bandama Valley 州にあるベイウミ Beoumi 地区、カチョラ Katiola 地区と、同国北部のウオロドゥーグ Worodougou 州にあるセゲラ Seguela 地区、マンコノ Mankono 地区で発生しました。

本流行に対し、保健省はWHOの支援のもと1月10日～15日にかけて、ベイウミ地区およびカチョラ地区での現地調査を実施しました。本調査により、死亡患者25名を含む疑い患者64名が確認され、検査が実施されています。

1月22日、同国保健省は、WHOと国連児童基金(UNICEF)の支援を受けて、ベイウミ地区、カチョラ地区、マンコノ地区、セゲラ地区の生後9ヵ月以上の840,000名以上の住民に対する緊急の予防接種を開始しました。この緊急の予防接種のために選択された4地区は、2010年には、政治状況が不安定で予防接種を実施することができませんでした。